

会議録

- 1 附属機関等の会議の名称 令和3年度第2回丹波篠山市図書館協議会
- 2 開催日時 令和3年7月16日(金) 13:30～15:30
(傍聴の受付時間 13:15～13:25)
- 3 開催場所 丹波篠山市立中央図書館 視聴覚ホール
- 4 会議に出席した者
 - (1)委 員 杉本克治、木村 研、向井祥隆、中西文枝、溝畑あけみ、西野裕子、長澤一正、(敬称略)
 - (2)事務局 館長 小島理三、参事 中筋吉洋、係長 徳田実穂、司書 小土井月瀬
- 5 傍聴の人数 0人
- 6 会議の公開、非公開の別 公開
- 7 審議の概要
 1. 開会
 2. あいさつ
 3. 協議事項
 - (1) 篠山市立図書館ビジョンの検証について
 - (2) アンケートの実施について
 - (3) 第2次丹波篠山市立図書館ビジョンの骨子検討について

【(1)事務局より説明】

(委 員) 取組項目の進捗状況資料は、第1回協議会資料にあった「図書館ビジョンの取り組み」をより詳しくまとめられた資料と理解してよいか。

(事務局) はい。

(委 員) これまで10年間の計画の達成度は。

(事務局) 70%程度と考えている。

(委 員) 残り30%をどうクリアしていくかが課題であり、今後のビジョンにどう反映していくかを検討していくことで考えればよいか。

(事務局) そのとおり。併せて利用者のニーズも把握しながらまとめていく必要がある

と考えている。

(委員) 蔵書計画について、市民センター図書コーナーの蔵書計画が課題としてあがっている。本の購入費については、図書館としてもこれまでから予算の確保に苦慮されてきたが、予算的に中央図書館と図書コーナーの図書の購入を具体的にどう組み立てていこうと考えているか。来年度の予算確保に向けてすでに動きがあればお尋ねしたい。

(事務局) 図書コーナーは、児童書を中心に整備していく。ただ、児童書に限らず一般書も含めて購入していく必要があると考えている。子どもたちに必要な図書はもちろん、近隣には兵庫医大もあり、市民センターの中ではさまざまな文化活動も行われているので、こうした市民ニーズも含めてどういったジャンルの図書を購入していくか検討していきたい。予算については、図書費購入費として中央図書館と図書コーナーを合わせた予算構成となっている。いくらを図書コーナーに充てるかは、仮の計画は立てているが、ニーズに合わせて金額も変動するものと考えている。現在、図書コーナーの利用者に読みたい本のアンケート調査を実施している。この結果も踏まえて今後本の購入を進めたい。

(委員) 図書コーナーの図書費としてあげられないか。

(事務局) 現在は、全体図書費の中から図書コーナーの本を購入していくこととなる。

(委員) 今後、図書コーナーとしての購入費を確保していく考えはあるか。

(事務局) 今年は昨年度よりも減額となっている。来年度は、図書コーナーの購入費も含めてしっかりと予算の確保に向けて要求していきたい。

(委員) できる限り、図書コーナーの予算が見える形で取り組んでいただきたい。

(委員) 職員の配置について、図書コーナーは市の職員がローテーションでカウンターに入り、司書が奥の部屋で事務を行っている。司書がカウンターで利用者のニーズにアンテナを張り巡らせて対応することが本来の姿であると思うが、どう考えているか。

(事務局) 現在、図書コーナーの蔵書を充実させるために所蔵変更などの作業が多く、司書が奥の部屋でブックトラックに載せて作業を進めている。今後、整理が整えばシステムをカウンターに出して司書が対応することは可能である。しかし現状はシステムが1台であるため、今後システムの変更があるときに、利用者が増えて1台では足りない状況になれば、もう1台設置できるかどうかは予算の関係もあるため今後の検討になる。

(委員) 1台でも可能か。

(事務局) 貸出・返却の画面やほかの画面の立ち上げも可能であるため、カードの登録更新なども対応は可能である。貸出・返却用のセルフ機も設置しているので、併せて対応することは可能である。

- (委員) 蔵書が整い次第、司書がカウンターに出られるという認識でよいか。
- (事務局) 作業が落ち着き次第、カウンターに出ることは可能である。
- (委員) 文学講座など本にまつわる講演会などもビジョンに入れて充実していくことが望まれる。以前より著名な講師に来ていただいて、良いお話を聴くこともできた。予算的に毎年きつきつでやっていることを聞くので、こうした事業にも予算を付けて対応いただけたらありがたい。

また、以前に他館の館長が図書館に来られた際、ここの図書館は篠山の特色が出ていない、どういうジャンルの図書を集めているのかと話されていた。例えば、篠山は農業であったり、歴史や文化で古い街並みが残っていたり、能などがあつたりするのでこれらに関連する本や、河合先生など偉人にまつわる図書があれば篠山らしい特色が出るのではないかと。こういう図書を集めていくという司書や職員の思いも出していけたらより良いと思う。

それと、サインや書架配置について、東近江市の図書館に行った際、館内のどこに行ってもすぐに図書が見つかる表示をされていた。読んでほしい本をアピールするような配置もされていた。書架の魅力が伝わるような配置の工夫を研究いただきたい。

- (事務局) 講演会は毎年行う事業である。講師の選出など、今後も委員の皆さまからもアドバイスやご意見をいただきながら取り組んでいきたい。篠山の特色を出した本の充実については、現状、住もう帰ろう運動のコーナーを設置しているが、市役所の情報や市民ニーズに沿った本や資料の充実を今後も進めていく。

書架の工夫については、色の使い方や利用者の目につきやすいポップの設置などに取り組んでいるが、今後も改善しながら継続して取り組む。

- (委員) 資料の収集方法については、過去に分類法に従って作成したものがある。1回目の協議会資料の進捗状況では平成28年に終了とあるが、篠山らしさを出していくのであれば、方針を再度見直していく必要があると思う。利用者のニーズに合わせていくと貸本屋になってしまう。図書館として集めておく必要がある本とある程度スルーする本を整理して、図書館の立ち位置が揺るがないための収集方針として絶えず意識して見直していく必要がある。また方針を見ながら選書していくことが大事で、将来にわたって残すべき本はぜひ収集してほしいと思う。現状の収集方針のままで良いのか、方針を見直していくべきかを予算も併せて検討をお願いしたい。

- (委員) 篠山らしさに関連して、小学校は3年生で丹波篠山市の勉強をする。最初は自分の地域のことを学び、市のことを学んでいく。図書館に3年生が丹波篠山市についてより学べるような本があればうれしい。先生は3・4年生に対応した地域資料を載せた副読本を作成しているが、1冊の本であるため

限界がある。この点は学校の図書担当者と中央図書館と調整をすべきだが現状はできていない。本については、例えば、丹波篠山市を勉強する時には必ず黒豆ができてくる。黒豆を勉強するためにまずは豆について勉強できる本を読んでみる。そういうふうに関連する本を充実してほしい。

また、図書館の講演会が定期的に行われたら、図書館に対する魅力を感じる。子どもたちに関連する講演会も検討いただきたい。

図書館の施設見学の際に、図書館に来れば黒豆の勉強ができることを子どもたちに紹介いただけたらありがたい。

(事務局) 施設見学の際に黒豆などのキーワードを紹介することで、子どもたちの意識もより高まり、教育につながっていくと考えている。今後も先生と調整して取り組んでいきたい。

(委員) 図書館サポーターの研修があると聞いているが、今後の計画の詳細が分かれば教えてほしい。

(事務局) 当初6月末ごろの研修を予定していたが、コロナで開催できなかった。8月3日の図書コーナーか、18日の中央図書館のどちらかを選んでいただいて研修を実施する予定としており、1週間のうちに開催通知を送らせていただくので都合の良い日を選んでいただき、返信用封筒で返していただきたい。研修は2時間程度を予定している。修理、返本、リサイクルフェアなど、年間で日を決めさせていただくので、ご都合の良い日でお世話になりたい。日程が決まり次第資料を送付させていただく。

【(2)事務局より説明】

(委員) 図書館利用者・市民のみなさま向けのアンケートに、※2012～2021の期間における状況をお答えくださいとの表記があるが、統計のように何月何日現在でというように期間を区切って問う必要があると思う。例えば5年分、10年分、近々のことを問うのかを定めたほうが良い。まして子どもたちに5年分、10年分をたずねても意味がないので、それぞれの対象者で期間を決めて明示したほうが良いと思う。

(事務局) この件については、事務局で検討させていただくことでご了承願いたい。

(委員) 小学5年生にアンケートの前文は読み取れるか。中学生は問題ないと思うが、小学生用はもう少しみ砕いた文章に代えたほうが良いのではないか。

(委員) 先生が読まない生徒だけでは理解は難しいと思う。そのようにしてもらえるとうれしい。「策定」という言葉は中学生でも難しい。

(委員) 中学校では、西紀と今田の2校となっている。選んだ根拠は何か。今田中学校の生徒は自分たちでここまで来ることはできない。逆に中央図書館や図書コーナーが近くにある丹南中学校や篠山中学校をアンケートの対象から

外しているのはなぜか。

- (委員) 私もバランスよく全校に実施した方が良いと思うが、いかかが。
- (委員) 図書館の利用について問うのか、図書の利用について問うかによって違ってくると思うが、ここでは図書館の利用についてたずねている。そうすると、配本所を利用している子どもたちは答えることが難しい。
- (委員) 子どもたちが利用しやすい図書館はどうあるべきかが観点だと思う。親が図書館まで送ってくれるならもっと利用したいとか、配本所にもっと本があれば利用しやすいとか、移動図書館があれば利用したいなど、こういったことが子どもたちへの問いの観点になれば良いと思う。
- (委員) 図書館から遠い距離にある子どもたちに応えてもらう設問になれば良いと思う。
- (委員) 配本所の空いている時間が平日の学校の時間となれば、中学生はそもそも利用できない。図書館から団体貸出で本を学校に届けてもらっているが、それでしか本に触れることができない。
- (委員) 学校図書室の利用についての設問があっても良いのではないか。
- (事務局) 子どもたちへのアンケートについては、各委員から様々なご意見をいただいているので、参考にさせていただきながら、先生(委員)と個別に調整し、決めてさせていただくことでご了承いただけるか。
- (委員全員)
- 異議なし。
- (委員) 中学校と調整された内容で、小中学校で統一したほうが良いということであれば、小学校としては決定内容に合わせて対応していく。
- (委員) 問6で、年に数回程度とあるが、数年に1度という選択肢があっても良いのではないか。
- (委員) アンケート期間が8月1日から14日までとなっているが、お盆に入り、期間が短いのではないか。2週間で400人の回収は難しくないか。1ヶ月程度見た方が良いと思うがいかかがか。学校の期間設定はどうか。
- (委員) 学校としては、2学期に入ると運動会や体育祭があり、アンケート実施期間は短い方が良い。
- (事務局) アンケート期間は広報紙で記載しているが、回収状況を見て少なければ期間を延ばすなど、臨機応変に対応したい。
- (委員) 臨機応変な対応をお願いします。

【(3)事務局より説明】

- (委員) 4番のところが空白だが、図書館として仮の構想はあるのか。
- (事務局) 基本的にこれまでのビジョンの大きな柱は変わらないが、アンケート結果

や委員の皆さんからいただいた意見を踏まえて施策を変えていく必要は出てくると考えている。

(委員) 河合雅雄先生や隼雄先生の本は学術書と一般書か。図書館にはすべての本が揃っているか。

(事務局) 学術書はない。

(委員) 例えば、篠山にゆかりのある大学の教授などが書かれた学術書が図書館にあれば、それがカラーになると思う。知り合いの教授でも学術書を出している。趣味がこうじて専門書を出したりしている方もある。こういった方たちから本の寄贈を受けたり、寄贈いただける方を人伝いに紹介してもらったりしながら資料を集めるのも一つの方法ではないか。時には、本を寄贈された方の講演会を開けば同級生が集まる機会にもなる。ビジョンでは、郷土に関わる方の学術書や専門書の収集を計画の一つとしてあげても良いと思う。

(委員) 今まで、各地域から出られた著名な方の学術書を図書館が特別コレクションとして収集しているところがある。著名な方の一般書だけでなく学術書も合わせて展示して閲覧してもらうこともできるし、特別コレクションとして篠山らしさを見せていくことも可能かもしれない。

(委員) 今の方や先人たちも探っていくと、とんでもない方がヒットする可能性や楽しみもある。

(委員) そうした方の本は貴重な郷土資料になる。図書館のお宝になる。ただ、収集の範囲をどこまで広げるかは図書館の方針なると思うが。

(委員) 河合雅雄先生は原稿を手で書かれていると思う。筆の走らせ方や使われていた鉛筆などを見てみたい。学術書だけでなく児童文学も書かれていたので、もしそうしたものが残っていれば、資料としては大切なものになってくると思う。

(委員) 基本理念の「人と本・知識・情報を結びつける知的空間の創造」が一つの標語のようにになっているが、次のビジョンでは違った切り口で書かれるというイメージでよいか。

(事務局) はい。

(委員) 図書館政策のあり方について、文科省がホームページで表している。その中には、行政の基本政策目標に図書館政策に関することを盛り込むことが必要であるとはっきりと書かれている。やはりまちづくりのための自治体の図書館である。まちを良くするために頭脳として図書館が存在する。各部署で必要な図書を図書館で見られるというのが自治体図書館の姿だと思う。この点を次のビジョンでは新しい切り口として書いていく必要がある。

(委員) 各部署に必要とする本を聞き取って、資料収集することが大事だと思う。本が充実した暁には図書館をどんどん利用してもらうようにPRしていく、そう

すると図書館がまちづくりの核となる。

(事務局) 市役所の会議や学校の会議などを図書館で開催することで、必要な本が図書館ですぐに手に入り、情報を入手できることで業務がスムーズに進むという環境を提供できればと思う。

(委員) 市役所に黒まめ課があったと思うが、そういう部署は黒豆のパネルなどを持っているのではないか。そういったものを図書館で展示したり、学校に貸し出したり、互いに連携すればよい企画ができると思う。

(事務局) 市内には黒豆マイスターがおられ、子どもたちの栽培体験なども行っている。委員の皆さまからは、人と本のつながり、人と人とのつながり、人と地域とのつながりといった貴重なご意見をいただき、ありがたい。

(委員) もう一点は、高齢化が進み、図書館に来にくくなっている方もある。遠隔地の方へのサービスのあり方がこれからますます求められるのではないか。以前に移動図書館を整備してほしいという声が協議会でも出ていたが、市の予算が伴わずできなかった経緯がある。財政状況も悪く、人口も減少している中でどのようなサービスを今後展開していくのかを課題としてビジョンに取り上げてほしいと思う。

(委員) 月に一度地域を巡回する形であれば、各公民館に貸出用の本を置いておいて、まち協が本をもって地域を廻ることは可能だと思う。委託という形が取れば対応は可能ではないか。

(委員) 丹波市は配送ボランティアが図書館ボランティアの枠組の中で取り組んでいる。丹波篠山市も社会福祉協議会や自治会などと連携してつながっていかれてはどうか。図書館ですべてを行うのは難しいと思う。

(委員) 職員の専門性について、今回の人事異動で図書館の職員が大幅に変わった。係長は図書館の経験があるのですぐに飲み込めるだろうが、配置になった段階で専門となる。図書館へ異動された職員が先進地に1週間ほど研修に行かれて、研修内容をほかの職員やボランティアにつないでいってもらえたらありがたい。

(委員) 司書の数は少なくないか。マンパワー的にどうか。

(事務局) 司書は10名人枠で8名しかいない。一人当たりの業務量が多く負担となっている。

(委員) それは定員割れが続いているということか。なり手がいないのか。

(事務局) 司書の募集をかけても応募がないのが実態である。市内に資格者はおられると思うが応募いただけない。

8. その他

(事務局) ○次回第3回協議会の日程調整

令和3年9月28日(火)13:30～中央図書館視聴覚ホール

9. 閉会